

Rotary



人類に
奉仕する
ロータリー

第 58 巻第 23 号 通巻第 2756 号

第 2770 回 例会

2017 年 (平成 29 年) 3 月 7 日

12:30 点鐘 東金商工会館 4 階 例会場

2016~2017 年度

国際ロータリーテーマ

人類に奉仕するロータリー

国際ロータリー会長 ジョン F. ジャーム

第 2790 地区ガバナー 青木 貞雄

第 6 分区ガバナー補佐 河野 知宏

東金ロータリークラブ会長 小林 信雄

〃 幹事 秋葉 芳秀

〃 広報委員長 長尾 邦俊

東金ロータリークラブ 概要

Togane RC Information

創立 1959 年 9 月 15 日

R I 承認 1959 年 10 月 17 日

例会日 火曜日 12:30~13:30

例会場 東金商工会館 4 階

Makeup fee ¥2,000

WEB <http://www.togane-rc.jp/>

事務所 〒283-0068

千葉県東金市東岩崎 1-5

東金商工会議所内

TEL 0475-52-1101(代)

FAX 050-3730-2559

E-mail info@togane-rc.jp

Program

開会宣言・点鐘	小林 信雄 会長
歌	「君が代」「奉仕の理想」
四つのテスト唱和	秋葉 芳秀 幹事
お食事	みつはし
会長挨拶	小林 信雄 会長
幹事報告	秋葉 芳秀 幹事
誕生お祝い	大坪 成彬 会員
スピーチ	
ニコニコBOX発表	親睦委員会
出席報告	管理運営委員会
閉会宣言・点鐘	小林 信雄 会長



幹事報告



秋葉 芳秀 幹事

- 印西RCから創立 50 周年記念式典のご案内が来ています。欠席いたします
- 4月 22 日地区研修協議会の案内が来ています
- 3月 7 日に理事会を開催します
- 3月の例会は 7, 14, 28 日の 3 回になります。
3月の卓話は、渋谷会員に願する予定です
- ロータリーの友 3 月号が来ました。33 ページに R I 会長エレクトの記事があります

卓話



卓話の前に、かるたとりをしました

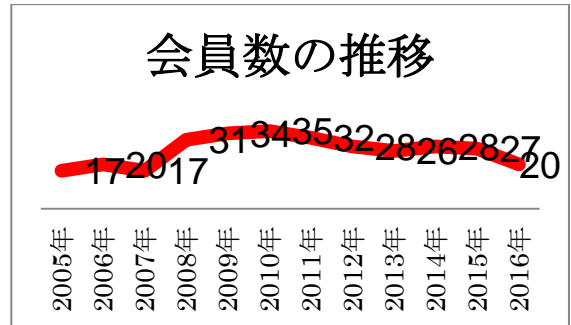


鈴木康道前会長に読み札を読んでいただき、会員が取りました。

ルール：絵札を取った人が、札の裏の解説を読み、周りの人は読み終わったら拍手をする

NPO 法人地域医療を育てる会の活動について

以前こちらで卓話をさせていただいたことがありますので、その時とは若干違うお話をさせていただきます。当会は 2005 年 4 月に活動を始め、12 月に NPO 法人格を取得しました。会員の数ですが、17 名でスタート、一番多いときは 35 名、今は 20 名ということで減り気味です。



欠席・Makeup の連絡は、前日までに（緊急の場合は当日 10 時までに）事務局宛に、電話・FAX・Eメールにてお願いします。メーキャップ先への事前連絡もお忘れなく。

電話 090-7634-7175 / FAX 050-3730-2559
Email: info@togane-rc.jp

出席率 2月28日

会員数	出席率	コイン BOX
17名	82.35%	1,299円

会のミッションは設立当初から「対話する地域医療を育てる」という、ちょっと抽象的ですが、変わっていません。活動の2本柱として、情報発信と対話の場づくりをしています。情報発信に関しては、クローバーという情報紙を発行しています。皆様のお手元に最新号をお配りしましたので、お時間のある時に目を通していただければと思います。

ミッションは変わらないけれど

目標は変化してきた





設立当初は、医師不足がとても深刻になっていた時期です。今でも深刻なんですけど、当時はあまり報道されていませんでした。「たらいまわし」とか「受診拒否」とかそういう言葉が新聞に載っていて、あたかもお医者さんが冷たい、加害者のような、そういう書きぶりがマスコミで目立っていた時です。その時に私たちはそうじゃない、と。お医者さんは確かに少ないけれど、少ないからこそ、正しい医療のかかり方について学ばないと、需要と供給のアンバランスな状態がさらにひどいことになると思いました。そしていろいろな情報を発信してきました。

今は高齢化と、働き手の不足等が言われていますが、医療を必要とする人の数が、提供できる医療の量よりもうんと増えている。そういう時代です。ですので、正しい医療のかかり方ももちろんですが、病気を予防することがとても大事になりました。また、病気を予防するためには地域のご近所づきあいであったり、福祉の勉強であったり、コミュニティというものを考えていかないとこの問題は解決できないだろう、そんなところに来ています。

コラボレーションで目標を達成

会員は減ってきている。目標は広範囲になっている。そういう状況で会員を増やして活動を広げるのは、かなり難しい。ですが、地域を見回してみますと「会費を払って入会することはできないけれど、ちょっとだけの手伝いなら協力できるよ」という人がかなりいる。そういう人たちや他の組織とコラボレーションして、目標を達成すればいいな、と考えました。また同時に、私達が発信している情報を受け取った方を、今度は情報を発信する人に変えていけばいい。そのように考えました。

会員は減少、目標は広範囲

-  会員を増加して活動を広げるのはかなり困難
-  しかし「少しだけの手伝いなら、協力できる」人もいる
-  今の人や、他の組織とコラボレーションして、目標を達成すればいい
-  情報の受け手を、発信者に変えていけばいい

これまで、資料にありますように本当にいろいろな団体さんといろいろな事業を展開して参りました。これが出来たのはなぜかと言うと、地域医療を育てる会の会員が、年齢層、住んでいる地域、職業などにおいて多様なメンバーだからです。地域のいろいろなニーズや、「あそこにはああいう人がいる」といった情報を集めやすい団体だと言えます。「じゃあこういう所に手伝ってもらおう」「協力してもらおう」ということがやりやすいNPOなんです。

くらしの講演会（東金市社会福祉協議会）
さんむMC 若手医師を囲む会
サポーター：一般市民
地域訪問研修：みのりの郷東金、
あいよ農場、コイノニア、
菅原工芸硝子株式会社
産業祭カルタ大会（東金市健康増進課）
クローバーの配布（東金市区長会連合会）
山武郡市三師会（医、歯科、薬剤師）
地域医療を守り育てる住民活動
全国シンポジウム（地域社会振興財団）

これまでにコラボレーションした事業と団体

頭と手と心

人が自主的に行動するためには

頭と手と心が伴うことが必要

頭: 問題に関する情報

手: 自分たちで行動できる道具や方法

心: 希望

過去の辛い思いを繰り返さずに済む



先ほどお話しましたが、情報の受け手を発信者に変えるにはどうしたらよいでしょうか。そのためには、人が自主的に行動できるようにすることがとても大事だと思うんですけども、そのためには頭と手と心が伴うことが必要だと思っています。頭というのは、問題に対する情報、手というのは、専門家がいなくても自分たちで行動できる道具や方法、そして、心は希望です。その行動をすると、こんなにいいことがある・良くなるという希望。または、過去に自

分が経験した辛い思いを繰り返さなくてよくなる、という喜び。そういうものが心にあると、人は「じゃあ、やってみよう」と思うのだと考えています。

かるたというツール（道具）

先ほど皆さんに体験していただいた「私の夢かるた」ですが、これが出来上がるまでのお話をいたします。埼玉県幸手市にある東埼玉総合病院のスタッフが地元の人たちに向けて、高齢者のくらしの心得を広めようとしてしました。先ほども介護保険の札などありましたが、皆さんに知らせたいことがたくさんあったんです。それを箇条書きにしたものを、最初は考えていました。しかしそれだと、どうしても医療側からの押し付けになりがちです。情報を伝えるのであれば、楽しく、覚えられるものとしてかるたを使ったらどうだろうと考えました。

病院のある埼玉県幸手市と、東金市、大網白里市の住民に呼びかけて、かるたプロジェクトを始めました。まず、東埼玉総合病院の中野智紀先生が高齢者を取り巻く医療の問題や、高齢化が進むとどのようなことが心配されるかをお話し下さいました。お話を聴き、私達もいろいろな質問をしながら過ごしました。



医師によるレクチャーと住民の話し合い

そして自分の夢や希望を語り合ったんです。自分が歳をとっても、体が不自由になっても、どんな暮らしをしたいかという夢を語り合いました。そして、その夢と、夢を実現するためにはどういうことに気をつけたらよいか、自分たちはどんな努力をしていかなければならないか、そんなことを考えながら七五調の言葉にして、かるたにしていきました。その過程で医療側から伝えたいことも盛り込んで作っていったんです。これは住民と医療者の協働作品なんですね。読んでみると、「それぞれと、あれあれで通じる年となる」とか、皆さん読みながら笑いながらかるたを楽しんでくださっています。



東金市産業祭にて行った かるたコーナー

これが、私たちが考えた道具なんです。例えば健康、病気予防に関するお話、介護保険等のお話を聴くときにわざわざ専門家をお招きしなくても、このかるたを使って遊ぶだけで、かるたの札の裏にある情報が伝わるんですね。今はどの業界でも、ニーズに対してサービスのプロバイダーの量が足りなくなっています。いかに、専門家の手を離れたところで情報を伝えていくのか、広めていくのかという点で、このような道具を使うことを考えました。

ボランティア活動の醍醐味

私達がやっていることはボランティア活動なんですけれども、ボランティア活動の醍醐味があります。メンバーが雇用関係ではなく対等なので、そこに難しさと面白さがあると思っています。メンバーが自主的に活動するためにそれぞれの会員のモチベーションがカギになってくるんですね。

また、一人ひとりの会員が持っている能力や経験をいかに組み合わせて活かしていくか。活かすことによって、メンバーが「やってよかった」「楽しかった」「頼りにされてうれしかった」と。そういうものがまた次のモチベーションになっていく。ここが一番面白いといえば面白いところです。

地域の課題に対して、組織としてどのように関わっていくのか、ということと、今いる会員20人なら20人で、35人いた時にはできたことが今はできない、そんなこともありますけれども、今いる会員の能力や経験をどのように活かして、他の組織とコラボレーションしていくのか。そんなことを試行錯誤しながらやっています。これからもいろいろな工夫をしながら、私自身も含めて会員の満足度を上げていきたいなと考えております。ご清聴ありがとうございました。

